ⓕ

小　論　文

学　類	ページ	解答用紙枚数	時　間
人間発達文化学類	1～13	1枚	120分

注　意　事　項

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は13ページある。印刷不鮮明の箇所などがある場合には，監督者に申し出ること。
3. **解答**は指定の解答用紙に**横書き**で記入すること。
4. 解答用紙の指定欄には必ず**受験番号**を記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

問題文訂正

小論文

該当箇所	1ページ　下から2行目
誤	行動の具体な実践例
正	行動の具体的な実践例

該当箇所	5ページ　下から1行目
誤	こうした省察できる人々
正	こうした省察ができる人々

該当箇所	10ページ　上から1行目
誤	新型コロナウイルスは，一本鎖の DNA をもつウイルスで，二本鎖の DNA をもつタイプ(SARS など)と比べて変異しやすいと言われています。
正	新型コロナウイルスは，一本鎖の DNA をもつウイルスで，二本鎖の DNA をもつタイプ(SARS など)と比べて変異しやすいと言われています。*

追加箇所	13ページ　最終行
正	* 科学用語については出典資料のまま

人間発達文化学類

（注意）・解答は指定された解答欄に横書きで記入し，字数は指定を超えないこと。

・解答用紙は1行が20字，全部で1,200字となっている。

・解答の際，句読点，引用符，カッコなどはいずれも1字に数える。

・ただし，行末の句読点などは字数に含まれないものとする。

次ページ以下の＜資料＞は，内田伸子著『想像力　生きる力の源をさぐる』(春秋社，2023年)の一部である(ただし，出題にあたり原文の一部を変えている)。

この文章を読んで，以下の問いに答えなさい。

問 1　下線部①「創造的な想像力に潜む暗い面」について，本文に基づき，300字以内で説明しなさい。

問 2　下線部②「メタ的想像力」とはどのような能力か。またなぜその能力が重要なのか。著者の挙げている例を参考にしつつ300字以内で説明しなさい。

問 3　下線部③について，「創造した表象を光と影の両面から照らしてみる」とはどういうことか？この意味を明らかにしつつ，自分が現在直面している，あるいは将来直面するかもしれない「危機的状況」において，「表象を光と影の両面から照らす」行動の具体な実践例，あるいは見聞した事例について600字以内で述べなさい。

<資　料>

メタ的想像力による破壊力の抑止

想像力に潜在する破壊的な力

想像力は生きる力であり人間力です。想像力を発揮することにより，人は未来に希望をもち，逆境に耐えて生き抜くことができます。

しかし，コロナ禍でのSNSによるフェイクの拡散や関東大震災のデマの伝播（でんぱ）を見ると，想像力を本来創造的なものと理想化したり過大評価したりしてはならないと思います。想像力を働かせることで新しいものが生まれ創造される一方で，想像力には，負の側面――残虐性や破壊性をもたらすこともあるということにも配慮しなくてはなりません。恐怖心から人は疑心暗鬼になり，現実認識を誤らせることがあるのです。

アメリカの環境学者ギフォードは英語圏では想像力について，二つの対立する考え方があると指摘しています(ギフォード 1989)。ギフォードは，想像力による創造と現実の知覚とをはっきり二分しています。一つは，フィクションやありもしない空想は想像力による所産であり，事実は知覚によってもたらされるものであると捉える立場ということになります。もう一つは，想像力は現実の創造・知覚のための必要条件であるとみなす考え方です。ギフォードによれば，これら二つの立場のいずれをとるにしても，想像力には消極的で否定的な面があることを忘れてはならないというのです。

第一の考え方によれば，想像力を行使した結果，虚構や幻想が生み出されることになります。これらは実際的―功利主義的見地からは，虚説であり虚偽とみなされます。詩人や小説家が「虚構の館」の住人であるのに対して，科学者や発明家，政治家，実業家などは「事実の館」の住人ということになります。「事実の館」では，移り行く「時間」対「永遠」，「愛情」対「憎悪」など相互に対立するものは排除しあうことになります。

第二の考え方によると，想像力が現実の創造，認識に欠かせないものと位置づけられます。それは同時に事実の認識を狂わせ，危険で破壊的な現実を造り上げるという

可能性をはらんでいることになります。この立場では，科学者や実業家，さらに，詩人や画家たちも想像力による現実化というただ一つの館のさまざまな部屋に住んでいることになります。「想像力の館」では，「時間」対「永遠」，「愛情」対「憎悪」，「悲劇」対「喜劇」，「創造」対「破壊」といった対立項は相互に依存関係をもつものとなります。

私の立場は，第二の立場に立っています。何かに出会う前にそれを想像することができなければそれに実際に出会ったときに現実として認識することはできません。これはコップが「事前に対象を形づくる想像力」と呼んだ想像力のはたらきの重要な部分なのです。しかし，第二の立場をとったとしても，ギフォードが言うように，「事前に対象を形づくる想像力」が破壊性を潜在させていることを忘れてはなりません。

想像に潜む破壊力

武器開発という科学と発明の分野を例にとれば，創造的な想像力に潜む暗い面①を浮き彫りにすることができましょう。原子力の発明は，たしかに新しいエネルギーをもたらし，人々の生活を豊かにしました。しかしその一方で，広島や長崎で被爆した人々やチェルノブイリの事故とその後遺症に苦しむ人々，そして，3・11の史上類を見ない大規模な福島第一原子力発電所の事故の例を出すまでもなく，人類を，地球規模で死に追いやる危険性をもたらしもしたのです。

「防衛」の名のもとで武器の開発を進める想像力に破壊的な力が潜んでいることは誰の目にも明らかです。自動車や道路計画の推進にあずかった想像力は，その代償としての環境破壊と汚染を見通していたのでしょうか。

こうしてみると，想像力の行使が人間にとって否定的なものをもたらす可能性が含まれていることは確かなことでしょう。このように，想像力には，新しいものを生み出す創造的で生産的なものと，同時に，破壊的で生命を脅かすものとがあります。破壊的想像力は次のような特質からいって，最終的には人間の生命を脅かすものとなるのです。

> 破壊的想像力は，理性による議論を受けつけず，また，対をなす創造的想像力の声を聞き入れることもなく，自己増殖していく。もし，すべてを単純に黒と白（あるいは，ばら色）に塗り分けたいという，抗しがたい通俗的欲求に惑わされた

ときには，恐れといつくしみの気持ちをこめて，シラーの注1名言を思い出すべきである。

> 我々はしばしば謂(いわ)れのない恐怖に身を震わせることがある。が，真の恐怖をもたらすのは錯誤に陥った空想「偽りの想像力」なのである。
> 〔ドン・C・ギフォード／藤本陽子訳(1989)「想像力に潜在する破壊的な力」黒坂三和子編『自然への共鳴――子どもの想像力と創造性を育む」思索社，255頁より〕

しかし，このように想像力のもつ否定的な側面は，また，想像力によって再否定することができます。開発や進歩を目指しての活動に，人間の生存を脅かす危険性があるかどうかを予測し，事前に地球規模での破壊が進行していることを思い描くのも，想像力によっています。自動車と道路の開発を進めることによって，どのような代償を支払わねばならないかを見通すことも想像力を働かせて思い描くことができるのです。先述しましたが，私は，想像力そのものの働き方とその想像の所産までを対象化し客観視するという意味でそれを「メタ的想像力」と呼んでいます。

メタ的想像力は，ギフォードが「生態的想像力」と呼ぶ，歴史的，包括的，生態的な観点からの想像力のはたらきを指しています。メタ的，生態的な想像力を働かせれば，目の前の交通の改善やエネルギー問題を社会全体や地球規模で捉え，矮小化された想像力のもたらす破壊から解放する可能性が拓(ひら)かれることになります。ここにおいて，はじめて想像力は，人間の生存にとって不可欠の機能を果たしうるようになるのです。

エビデンスにもとづく想像

物理学者で随筆家の寺田寅彦さんは，流言蜚語(りゅうげんひご)の伝播は燃焼現象と幾分似ていると指摘しておられます。寺田さんの言う燃焼現象とは次のようなものです。まず長い管の中に水素と酸素を適当な割合に混合したものを入れておきます。管の一端の近いところで小さな電気の火花を飛ばすと，火花のところで始まった燃焼が次から次へと伝播していきます。伝播の速度が急速に増加すると，ついには爆発の波になって驚くような速さで燃焼が進行します。ところが水素と酸素の割合があまり多すぎたり，逆に

少なすぎたりしたら，火花の近くでは化学作用は起こりますが，燃焼として伝播するようにはならないのです。

流言蜚語（りゅうげんひご）の伝播も，火花に相当する流言の「源」と，それを次へ次へと受け継ぎ，取り次ぐ媒体が存在しなくては「伝播」は起こらないのです。「朝鮮人が井戸に毒を入れる」という流言が伝播した責任は媒体となった市民にあります。市民の想像力が刺激され，一定の表象を作り出す想像過程が進行しなければ，伝播の媒質になりえないはずです。そのときには流言は成立しないからです。次の文章に見られるように，「朝鮮人が井戸に毒を入れる」という流言を，冷静に，論理的に解釈しようとする人々がいたら，朝鮮人虐殺の惨事は起こらなかったかもしれません。

> 例へば市中の井戸の一割に毒薬を投ずると仮定する。さうして，その井戸水を１人の人間が一度飲んだ時に，その人を殺すか，ひどい目に逢はせるに充分なだけの濃度にその毒薬を混ずるとする。さうした時に果してどれだけの分量の毒薬を要するだらうか。この問題に的確に答へる為には，勿論まづ毒薬の種類を仮定した上で，その極量を推定し，また１人が１日に飲む水の量や，井戸水の平均全量や，市中の井戸の総数や，さういふもの，概略な数値を知らなければならない。併し，いはゆる化学的常識といふものからくる漠然とした概念的の推算をして見ただけでも，それが如何に多大な分量を要するだらうかといふ想像ぐらゐはつくだらうと思はれる。いづれにしても，暴徒は，地震前から可也（かなり）大きな毒薬のストックをもつて居たと考へなければならない。さういふ事は有り得ない事ではないかも知れないが，少しをかしい事である。
>
> 〔寺田寅彦(1950)『寺田寅彦全集』第二巻，岩波書店，431頁より。文字遣いは原文通り〕

少し冷静に考えてみれば，この流言の矛盾や不自然さにすぐに気づくはずです。非常な天災の場合に，こんな冷静な判断はできないのではないかという反論もあるかもしれません。寺田さんは，もし冷静に考える力がないとしたら，「ほんとうの意味で活きた科学的常識が欠乏している」ためではないかと推測しています。判断の標準となるような活きた科学的知識が働けば，「“科学的な省察”の機会と余裕」を与えてくれるはずだからです。こうした省察できる人々の中では，流言蜚語はその熱度と伝播能

力は弱められるのではないかと思われます。まさに，この冷静に考える力，想像過程を，あるいは，想像の所産を内省し，認識や分析対象としてメタ化する力，「メタ的想像力」を働かせることによって，避けることは可能なのですから。

②

メタ的想像力の減衰

メタ的想像力が働く余地がない窮状では，健常な人ですら，歪んだ表象が構築されることになります。では，メタ的想像力が発揮されないような「窮状」とはどのようなものでしょうか。

物音を聞いたので，扉を開いてみると誰もいない。こうしたときに普通は「ああ，思い違いだったか」と思うことでしょう。このとき，物音は「想像による産物」である「幻聴」ということになります。幻聴か否かを検証するには，事実と照らし合わせればよいことになります。この場合は，「物音」という聴覚的事実と「誰も見えない」という視覚的事実が矛盾することになるからです。

たとえば，図(ヘッブ 1975，303 頁より引用)をご覧ください。後ろの円筒ほど背が高く見えるのではないでしょうか。しかし，実測してみればすぐにわかることですが，「見え」の大きさとは相違して，円筒はまったく同じ大きさなのです。つまり見えの大きさの相違は錯覚によるものなのです。

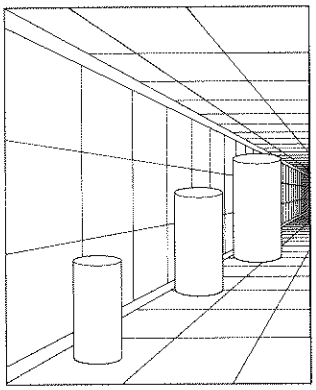

図　三つの円筒

このように想像の場合も，錯覚の場合も，外界の見えを手がかりにして判断し，自

分自身の心のはたらきについて「実在物の認識だった」のか，それとも「幻聴だった」「錯覚だった」のかの区別が可能になります。

しかし，このように現実との照らし合わせができない場合があります。想像力が現実と非現実の食い違いや情報に内在する論理的矛盾を飛び越してしまうことがあるのです。特に，外界との照らし合わせができないうえに，流言を受け入れるような社会心理的基盤のあるときには，省察や分析と冷静な判断の立ち入る余地はなくなり，私たちは自省することを見失ってしまうのです。

以上に述べたように，恐怖や不安は流言や迷信をつくりだします。しかし，それ以上に，私たちは何ごとかに接するとき，過剰な期待を抱くものです。そのために，無際限な憶測や仮定を信じ込み，それに捕らわれてしまいます。人は「期待した」ようにものごとを認識し，「聴きたい」ように聴いてしまうのです。こうしたときは，幻聴や錯覚を「事実」「実在物」として受け入れ，それに沿った行動をしてしまうことになります。

想像は嘘の証拠にもなれば，真実の証拠にもなりえます。アリエティ(Arieti 1976)は，コンディヤクの「想像とは観念を結び付けて虚構をつくりだすことができる力であり，または想像は両刃の道具であり，知識と理解の手助けになるが，あざむく力ももっているため危険である」という指摘を引用して，想像力を働かせることが人間の認識の両刃の剣となりうると述べています。

想像によって，素材を統合してもっともらしい表象をつくりだすのは，一面からみれば「創造」とも捉えられますが，統制がきかなくなると「危険」にもなりうるのです。では，なぜ統制がきかなくなるのでしょうか。

感覚遮断がもたらす「思考停止」

情報が極端に制限された状況では人間の内省力や判断力はどうなるのでしょうか。

知覚的刺激を剥奪され，外界からの情報が極端に制限されているときに，判断力は著しく低下することが次のような感覚遮断実験によって明らかにされています。ベクストンら(Bexton et al. 1954)は大学生に一日20ドル払って安楽なベッドに一日中横になっているというアルバイトをしてもらいました。ただし，被験者の目は半透明のプラスチックで覆われており，光は入ってきますが，物の形は見えない状況です。ま

た手は筒状のもので包まれており，関節が痛くならない程度には動かすことはできますが，何かに触ってその感触を確かめるようなことはできない状況に置かれています。耳にはイヤホンが装着され，テストを受けるとき以外はつねにブーンという雑音が流れています。大学生は感覚刺激をできるかぎり最小限に低減した条件でベッドに横になるように求められたのです。このような制約条件は，食事をするときと洗面所に行くときのみゆるめられました。

このような条件のもとで，可能なかぎり長く生活してほしいと言われたにもかかわらず，最高6日間留まっていた1名を除き，他のほとんどの学生は2，3日以上この状況に耐えることはできなかったのです。

しかも，感覚遮断状況では，ありもしない話を信じ込むといった被暗示効果も高くなります。大学生たちは，普通なら軽蔑してしまうような話にも好んで耳を傾け，ありもしない幽霊の話を実験室から出たあとも信じ込んでしまうなど，通常の判断力がかなり低下し，計算能力も低くなってしまいました。

また普段はクラシック音楽しか聞かないと言っている学生に，ボタンを押すと短時間通俗的なポピュラー音楽が聞き取れる装置を渡してやると，何度でも繰り返しボタンを押して，ポピュラー音楽を楽しむ様子が見られました。ふだんは株式市況にまったく興味がない学生であっても，単調な株式市況の放送を熱心に聴取しようとする行動も観察されたのです。

これらのことから，人は刺激のない退屈な状況に耐えられないということがわかります。また，刺激のない状況では単調さを破ってくれるものなら，どんな刺激であっても見境なく求めようとするのです。環境との正常な接触をもつようになりたい，活動的になりたいという要求はきわめて強くなります。たとえ，骨折などして自分の足でまったく動くことができないとしても，本を読んだり，テレビを視聴することなどが自由にできる環境にいれば，この大学生が感じたような情報に対する渇望感や切迫感は決して湧くことはないと思われます。こうしてみると，情報への渇望は，身体的な活動ではなく，精神的活動を活性化することへの要求であると考えられます。

大震災下での流言は，朝鮮人が仕返しをするかもしれないという予測をもたせるような心理的基盤ができており，さらに情報が極度に制限されていたこととが相まって，人間の判断力や分析力が鈍らされたことによるものだと考えられます。

疑う心を開いておく

表象とことばの関係

ことばは記号です。想像することによって心の中に抱くものやことについての心的表象は，現実対象の写しであり，代替物です。あるいは観念のうえの対象の代替物であることもあります。この代替物の機能と，ことばの機能には共通点がありません。ことばは表象を描くのに必要不可欠のものではないのです。描画も表象の表現手段になります。

語りと描画の共通点をあげるとすれば，表象もことばも，それぞれ固有のやり方で，ある対象を代替物で代表させるという点にあります。表象は，知覚的物理的特徴からなる類同的代替物として頭の中に描き出すものですし，ことばも，現実のことやものの代替として機能しているのです。

しかし，ここで忘れてはならないのは，類同的代替物は，ことばと関わることによって明確化され，ことばの法則のもとに形が整えられるという点です。類同的代替物は，最初は意識の中ではその特徴が明瞭になっていないこともありえます。ことばは類同的代替物の分節化を行い，その中に多くの分化した諸性質を探索できるようにしてくれます。この点において，ことばは心内の表象を明瞭化し，形象化し，意識対象にするうえで不可欠な手段となるのです。

疑う心を開いておく

科学的思考の肝はエビデンスにもとづく論証の仕方にあります。相対的なものの見方，批判的思考力がその真髄となります。しかし私たちの目をおおう鱗は厚く，目から鱗が落ちる経験は少なくありません。

寺田寅彦さんの言う「科学的省察」や，冷静な判断と分析が起こるきっかけは，まず，自分が構成した表象がどのようなものかを意識化し，距離を置いて眺めることで与えられるのです。この作業の過程で，ことばと想像力と絡みあい，強化しあうのです。

新型コロナウイルスの流行も，確実なエビデンスにもとづき，解決の方途が見つか

るはずです。そもそも新型コロナウイルスの正体は何なのか？　新型コロナウイルスは，一本鎖のDNAをもつウイルスで，二本鎖のDNAをもつタイプ(SARSなど)と比べて変異しやすいと言われています。遺伝子の配列がどんどん変わって新しいものに変化していく確率が高いのです。ちなみに，日本型は，中国武漢型や欧米型とは違う遺伝子配列をもっているらしいということも明らかになっています。

行動生態学者で総合研究大学院大学学長の長谷川眞理子さんは，「特定の遺伝子にターゲットを絞ってのワクチンが作りにくくなるので，対応はやっかいになるだろう」と指摘しておられます(長谷川 2020)。

ウイルスは，本物の生物とは違って自分自身では自分の複製ができません。自分を複製するための最低限の遺伝情報はもっていますが，複製を実行に移す装置を何ももっていないので，本物の生物の細胞を利用しなければならないのです。エボラのように毒性の強いウイルスは患者が劇症を起こして死亡する確率が高く，宿主が死んでしまえば，エボラも滅びてしまいます。しかし，今回の新型コロナウイルスの毒性はあまり強くないので，症状が出ない罹患者(りかんしゃ)は歩き回り，感染が広がってしまいます。自分の形を変えてどんどん宿主を増やしていきます。症状の出ていない人でも感染させる力があるので，感染力はかなり強く，エボラよりもはるかに手強いと言わざるをえません。

そこで，私たちがとれる対策とはどういうものでしょうか？　症状の出ない潜在的な感染者でも他人にうつす可能性があるとなると，健康そうであっても，なるべく人ごみには行かない，人との接触を避ける，会話しないという「三疎」がベストということになります。「三疎」(あわない。ふれない。しゃべらない)は人間の本性の対極にある行為です。それによるダメージは心理的にも経済的にもきわめて大きいものです。

しかし，*Never Waste a Good Crisis!* 危機を好機に転化するのはメタ的想像力です。

2020年4月には，作家で素粒子物理学者のパオロ・ジョルダーノが次のようなメッセージを発しています。

> 家にいよう(レスティアーモ・イン・カーサ)。そうすることが必要な限り，ずっと，家にいよう。患者を助けよう。死者を悼(いた)み，弔(とむら)おう。でも，**今のうちから，あとのことを想像しておこ**

う。「まさかの事態」に，もう二度と，不意を突かれないために。

〔J・パオロ・ジョルダーノ(2020)『コロナの時代の僕ら』早川書房，115―116頁より。太字は筆者〕

ジョルダーノのメッセージは，医療崩壊が起こり，人口あたりの死者数が世界一を(執筆時点で)記録したイタリアからのタイムリーな発信です。コロナと共存しながら，心理的なダメージをできる限り少なくするために，そして，危機を好機に転ずるためには，「創造的想像力」を発揮して未来世界を創造し，「メタ的想像力」を働かせて，創造した表象を光と影の両面から照らしてみることが不可欠なのです。

③締めくくりに，すてきなことばに乗せて，光と影の両面から照らし出すことの重要性を教えてくれる絵本を紹介したいと思います。

ある日　お月さまが　たいように　いいました。
「わたしは　まだいちども　したのせかいをみたことがないの。」
「ぼくは　あるさ。」たいようは　じまんげにいいました。
「それじゃ　きみに　したのせかいを　あんないしてあげよう。」
「あれは　まち。たくさんのいえやビルが　ならんでいるだろう。」
「これは　むら。いえは　すこししか　たっていないんだ。」
「これは　そとがわからみた　おうち。
そのまま　そっと　のぞいてごらん。
まどのむこうは，うちのなか。」
「こんどは　もっと　とおくを見てみようか。大きな　もりがみえるだろう。
ほら，ちっちゃな　花がさいてる。」
「これは　犬。まえからみたところ。
あれ，　うしろ　むいちゃったね。」
「これは　ぞうさん。とても　おもそうだろ。
こっちは　ことり。とっても　かるいんだ。」
「ひょうのコートは　てん　てん　てんのみずたまもよう。
ライオンのたてがみは　もようのない　えりまきさ。」
「ふとっちょ　かばさん。
やせっぽちは　とかげくん。」

「ペリカンは　はねのよろいを　きてるみたいだね。
ラマは　ふわふわセーター　あったかそう。」
「きりんは　ひょろひょろ　ながーいくび。
あらいぐまのくびは　ずんぐり　みじかい。」
「いるいる　あそこに　こわそうな　とら。
こっちに　いるのは　おくびょう　うさぎ。」
「よわむし　こねこ。
ちからじまんの　くま。」
「チータは　かけっこのめいじんさ。
だけど　かめさん，いつだってのんびりや。」
「みえるって　すばらしいことじゃないか。」たいようが　いいま
した。
「ぼくは　なんて　しあわせものだ。
ぼくには　みえないものなんて　ひとつもありゃしない。」
「いいえ，あるわ。」お月さまがいいました。
「あなたが　いちども　みたことがなくて，
これからも　ぜったいにみられないもの。
わたしが　まいばん　みてるもの。――それはね，く　ら　や　み。」

〔ブライアン・ワイルドスミス／わたなべひさよ訳(1983)『お月さまのさんぽ』らくだ出版。訳者の許可を得て掲載〕

すてきな絵と美しい日本語で語られる『お月さまのさんぽ』は私たちに大事なことを教えてくれます。太陽は，上から下から前から後ろから，外から内から，世界を見せてくれます。でも，いろいろ見えるはずの太陽にも見えない世界があったのです。……それは，く　ら　や　み。

私たちは「もの」や「こと」を見るとき，つねに疑う心を開いておかなければなりません。いつも，私たちは見えているものを疑う心――メタ的想像力――を開いておくことが求められるのです。

「物事について考えを固めてしまわず，見えているものを疑うよう心を開いておけば，世界を眺める目も丁寧になる。」　　ポール・オースター注2

それを「注意深さ」と米国の作家は呼ぶ。「爆笑もののヘマ，胸を締めつけられるような偶然」やさまざまの夢，混乱。自分が答えをもつ訳ではない事柄に人は翻弄されつつ生きるのだからと。ラジオのリスナーたちの悲喜こもごもの体験談を集めた『ナショナル・ストーリー・プロジェクト　I』(柴田元幸他訳)の「編集者まえがき」から。

〔「朝日新聞」2020年1月26日，鷲田清一「折々のことば」より〕

疑うこころを開いておくために，私たちは想像力を磨いておかねばなりません。同時に見えないこともあると疑うこころ――メタ的想像力も磨いておかねばならないのです。

注1　「誰をも恐れない者は，誰からも恐れられている者に劣らず強い」――18世紀に活躍したドイツの詩人フリードリッヒ・フォン・シラー

注2　Paul Auster：米国作家・詩人・批評家

令和７年度入学試験　　小論文「出題意図」

（入試情報公開用）

人間発達文化学類　一般選抜　後期日程

人間発達文化学類の以下のアドミッション・ポリシーを踏まえつつ、資料を与え、1,200字程度で論述させることにより、受験者の読解力・理解力・思考力・表現力を総合的に判断する。

人間発達文化学類では，生涯にわたる発達への支援や，人間の発達を支える社会・文化への支援を通じて，学校はもちろんのこと，行政や企業，地域社会で活躍することを目指す意欲を持ち，卒業までに次の４つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- 人間の発達を支援する教育および文化についての専門知識や技術を習得し活用する力
- 現代的課題や地域的課題への問題意識をもち，個々の事象を複数の観点から捉える力
- 人や文化の多様性を理解し，共感的態度をもって価値観や考え方の違いを超えた関係を築く力
- 学問固有の問いの立て方、ものの見方・考え方を身に付け，それらを活用しつつ社会の改善に向けて探究し表現する力

具体的には、内田伸子著『想像力』（春秋社, 2023 年）による資料を与え、人間発達を支援する際に必要な資質や適格性を総合的にみる。

問 1 及び問 2 では、資料を読み取り、その内容を説明させることによって、受験者の読解力・理解力をみる。

問 3 では、想像力の持つ正の面と負の面についての著者の見解を踏まえた上で、その内容を自らの経験、見聞、予測に基づいて考えさせ、その考えを論述させることにより、論理的な思考力と文章表現を総合的にみる。